

Eric J. Hall 博士招聘報告

原爆後障害医療研究施設分子診断学 鈴木啓司

平成 21 年 4 月 1 日から 10 日まで、米国コロンビア大学の Eric J. Hall 博士を長崎に招聘した。この招聘は、長崎大学 GCOE プログラムの世界的著名人招聘事業の一環として行われたものである。

放射線生物学および放射線腫瘍学の分野で世界的に著名な Hall 博士は、1962 年英国オックスフォード大学卒業（放射線生物学で博士号取得）、卒業後オックスフォード大学で放射線影響、とりわけ今日の放射線治療の礎となっている線量率効果や分割照射の生物効果の研究を始める。その後、米国コロンビア大学に招聘され渡米、現所属であるコロンビア大学放射線研究センターの初代所長となる。氏は一貫して放射線の生物影響研究を展開し、多くの際立った業績を残している。最近では、粒子線マイクロビームを応用したバイスタンダー効果の研究を展開し、低線量放射線影響の理解に新たなパラダイムシフトを巻き起こしている。また、放射線腫瘍学の講義を長年つづけており、世界の放射線科医のほとんどは Hall 博士の薫陶を得ているといっても過言ではない。さらに、若手臨床医の教育のために、世界的名著である”Radiobiology for the Radiologist”の第一版を 1973 年に著し、2005 年現在第六版と改訂を重ねている。同著書は、日本を含む世界各国で翻訳され、放射線科医のバイブルともなっている。このような研究および教育における著名な業績から、世界各国の学会や団体から表彰され、多くの栄誉に輝いている。

今回、放射線医療科学専攻の鈴木准教授が Hall 博士と面識を持つことから、世界的著名研究者招聘事業として Hall 博士の招聘を計画した。来日期間中には、長崎大学グローバル COE プログラムの国際展開について意見交換を行うとどうじに、長崎大学および全国の放射線科医の育成のための講演会および意見交換会を企画した。まず、4 月 6 日には、医学部良順会館ボードインホールにおいて、国際セミナーを開催した。Hall 博士の講演『Some characteristics of Biological Damage induced by ionizing radiations』には、学内外から数多くの聴衆が集まり、講演後は熱心な議論がかわされた。この講演の様子は、長崎大学 GCOE ホームページに、E-Learning 事業の一環として掲載される予定である。また、4 月 8 日には、原爆後障害医療研究施設において、放射線基礎生命科学を目指す大学院生を相手に、2 時間にもおよぶ講義が開講された。この講義では、放射線発見の歴史をひもとき、いかにして医学に利用されていくようになったのかが、自身の経験を交えながら解説された。特に、現在の放射線感受性評価のスタンダードになっている clonogenic cell death がどのように開発されていったかを聞くにつけ、研究が正しい道を辿るのに何が重要なのか考えさせられる一幕もあった。氏は、昨今の研究は真の意味での科学ではなく技術をもてあそんでいるだけであると表現したが、正に現在の科学界の現状を的確に表した言葉ではないだろうか。現在、放射線は治療や診断で幅広い用途で利用されている。だからこそ、技術としての研究ではなく、科学としての放射線研究の発展がさらに望まれる。講義の途中からすでに活発な議論が交わされたが、終了後の議論も含め、参加した大学院学生や若手研究者の心に長くとどまるであろう講義であったのは間違いない。

長崎を離れる際に、名著である”Radiobiology for the Radiologist”のさらなる改訂版を執筆し始めたところであることを聞かされた。Hall 博士にとって、改訂版の発行は自身が次世代に残せる唯一のメッセージであると語った。2 時間に及ぶ講義も、その苦勞をいとわず引き受けるのは、若い世代に唯一してやれることだからこそという。このような先達の情熱を、我々はしっかりと受け止めて次世代に伝え、そしてこのような活動を通じて、情熱と夢を持って被ばく医療学に従事する若手育成をはかることこそ長崎大学 GCOE プログラムの目指すところではないだろうか。



写真：大学院生を相手に講義をする Hall 博士（4月8日撮影）